

イエスの聖テレジアと十字架の聖ヨハネ の 精神を求める巡礼

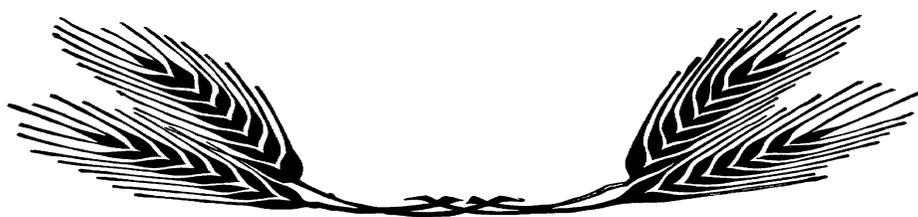


何事も心を乱すことなく
何事も恐れることなく
神を持つものには何も欠けることはない
神のみで満たされる

(イエスの聖テレジア)

目次 (2007年3月5日~13日)

	ページ
6日 トレド (聖霊の光を願う * 巡礼)..... (男子跣足カルメル修道会で)	3
7日 セゴヴィア (十字架の聖ヨハネ)..... (聖ヨハネの墓があるところで * 男子跣足カルメル修道会)	7
8日 アピラ (イエスの聖テレジア)..... (聖テレジアが生まれたところで * 男子跣足カルメル修道会)	11
9日 アルバ・デ・トルメス (聖人)..... (聖テレジアの墓があるところで * 女子跣足カルメル修道会)	15
10日 メディナ・デル・カンボ (カルメル会)..... (聖テレジアが創立した第二番目の女子跣足カルメル修道院で) サント・ドミンゴ・デ・シロス (グレゴリオ聖歌).....	19 23
11日 カレルエガ (聖ドミニコ・デ・グズマン)..... (聖ドミニコが生まれたところで * 男子ドミニコ修道会) ロザリオについて.....	25 30
12日 リジュール(フランス) (幼きイエスの聖テレジア).....	33
ミサ式次第.....	38
巡礼者名簿.....	42



3月6日 トレド

聖霊の光を願う

主の家に行こう、と人々は言ったとき
私はうれしかった。

エルサレムよ、あなたの城門の中に
私たちの足は立っている。

(詩編、122・1-2)

“さまざまな巡礼をしながら、教会を思い起こすのは当然である。キリストが巡礼者と共に歩まれるように、教会も共に歩んでいる。教会は旅する民、巡礼する民である。”



巡礼は、聖地を巡るという宗教的行為のことを指す。本来、巡礼とは日本における各地の聖地、霊場の神社、寺院を訪ね、参拝するため巡ることである。明治以降各宗教の聖地へ行くことをこの言葉に翻訳した。

ラテン語で「peregrinus」という言葉は、本来、外国へ旅することを指す。12世紀ごろから宗教的な旅ということだけを意味します。

つまり、巡礼は自分の世界から、自分の日常生活から出手、聖霊の導きによって心の中にいる神様と出会うということです。「神の幕屋が人の間であって、神が人と共に住み、人は神の民となる。」(黙示録、21・4)

キリスト教の巡礼(歴史)

キリスト教は、当初から殉教者を出したが、その墓所に詣でて敬意を表する信者がいた。これをマルティリウムといい、礼拝の場である教会と並び、キリスト教コミュニティの重要な中心となった。

4 世紀にキリスト教が公認されると、キリスト教発祥の地であるパレスチナ、ことにキリストの生地であるベツレヘム、受難の地であるエルサレムへ、その遺構に参拝する信者が旅行するようになった。また各地の殉教者記念堂も巡礼の対象となった。

キリスト教における巡礼は聖地への礼拝だけでなく、巡礼の旅の過程も重要視されている。すなわち聖地への旅の過程において、人々は神とのつながりを再認識し信仰を強化するのである。

地中海沿岸からヨーロッパ各地に諸聖人の遺骨(聖遺物または不朽体)または十字架などの遺物を祭ったとされる教会、聖堂などが多数あり、そのような地への巡礼が行われた。巡礼は多くの旅行者を集めた。巡礼者を惹きつけるために他の教会から聖遺物を盗んできたり、偽造するということがあったとされる。

古代後期から、殉教者の遺骨によって奇跡がおき、参拝した巡礼者に病気が治癒したり、歩けなかった足が動くようになったなどの事例が報告されるようになった。こうした奇跡が起こったということから巡礼者が集まるようになったというものも多い。例えば、ライ麦につく麦角菌に起因する麦角病(四肢が壊疽したり、精神錯乱を招く)は巡礼に赴くことで癒えるとされた。巡礼中の断食により、汚染したライ麦を食べなくなったためであったという。このように「奇跡」とされるものには、科学的に説明がつく例もある。

こうした巡礼の旅で病に倒れた人、宿を求める人を宿泊させた巡礼教会、その小さなものを Hospice (終末期の患者が残りの時を過ごす近代的なホスピスの語源)と呼んだが、そこでのもてなしから「歓待」(Hospitality)の語が生まれ、病人の看護などの仕事をする部門が教会の中に作られるようになって今日の英語でいう「病院」(Hospital)が派生した。ゆえに、Hospital は、病院だけではなく、老人ホーム、孤児院の意味も持つ。

集会祈願

聖なる父よ、信じる者の心に聖霊の光を注ぎ、教え導いてください。聖霊によってわたしたちが正しいことを志し、いつもその助けを受けることができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読 (イザヤ 1・10、16-20)

イザヤの頂言

ソドムの支配者らよ、主の言葉を聞け。
ゴモラの民よ、わたしたちの神の教えに耳を傾けよ。
〔お前たちの手を〕洗って、清くせよ。
悪い行いをわたしの目の前から取り除け。
悪を行うことをやめ
善を行うことを学び
裁きをどこまでも実行して
搾取する者を懲らし、孤児の権利を守り
やもめの訴えを弁護せよ。

論じ合おうではないか、と主は言われる。
たとえ、お前たちの罪が緋のようでも
雪のように白くすることができる。
たとえ、紅のようであっても
羊の毛のようになれることができる。
お前たちが進んで従うなら
大地の実りを食べることができる。
かたくなに背くなら、剣の餌食になる。
主の口がこう宣言される。

答唱詩編

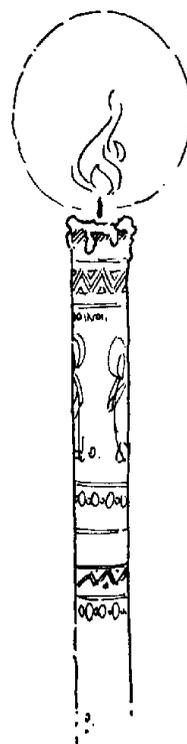
わたしたちは神の民、そのまきばの群れ。

「わたしの民よ、聞け。わたしはおまえに語る。
イスラエルよ、おまえを戒めよう。わたしは神、おまえの神。」

「苦悩の日にわたしを呼び求めよ。
わたしはおまえを救い、おまえはわたしをたたえる。」
感謝をささげる人は神をあがめる。
正しい道を歩む人を、神は確かに救われる。

詠唱 (エゼキエル 18・31)

わたしにはむかう心を捨てて、新しい霊と心を身につけよ。



福音朗読 (マタイ 23・1-12)

マタイによる福音

〔そのとき、〕イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、また、広場で挨拶されたり、『先生』と呼ばれたりすることを好む。だが、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

奉納祈願

全能の神よ、この供えものを受け入れ、とうといものとしてください。聖霊の光に照らされて、わたしたちの心が清められますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

聖なる父よ、聖霊を注いでわたしたちの心を清め、その豊かなたまもので満たしてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。





3月7日 セゴヴィア

十字架の聖ヨハネ (司祭教会博士)

十字架のヨハネは 1542 年にスペインのフォンティベロスで生まれた。本名はファン・デ・イエス。父ゴンサーロ・デ・イエスは裕福な織物商の息子であったが、貧しい機織少女であったカタリナ・アルバレスと恋に落ち、彼女と駆け落ち同然の結婚をしたため、一族から勘当された。貧しいながらも愛のある暮らしを始めた二人の間には三人の息子、ルイス、フランシスコ、ヨハネが生まれた。しかし、不幸が一家を襲う。なれない貧乏生活の苦勞で病気を得た父ゴンサーロはヨハネの生後まもなく世を去った。さらに貧困ゆえ、息子ルイスも病死。苦悩した母は末っ子ヨハネを死なせるのはしのびないとメディナの孤児院にあずけた。

9 歳で孤児院にあずけられたヨハネは、そこで大工をはじめとするさまざまな職業教育を受けたが、いずれもものにならなかった。孤児院では仕事だけでなく、経営の維持のために物乞いのようなこともせねばならず、言語に絶する苦勞があった。

17 歳になってようやく病院の看護師の仕事を得たが、同時に街角で病院の維持のための献金を集めなければならなかった。やがて、ヨハネの人生に転機が訪れる。イエス会の学校に学ぶ機会を得て、司祭になる道が開けたのである。彼はそこで生活の安定した病院つきの司祭になることをすすめられたがそれを選ばず、あえてカルメル会の修道院に入ることを望んだ。修道士となるにあたって(21 歳)、彼が選んだ修道名が聖マチアスのヨハネである。

1567 年、25 歳の時、神父になったばかりのヨハネはアピラのテレジアと運命的な出会いをした。彼女は停滞していた女子カルメル会の改革に成功し、修道会に新たな息吹を吹き込んでいたが、ヨハネの徳の高さを認め、同志となって男子カルメル会の改革を行わないかと呼びかけたのである。

こうして上長の許しの下にヨハネはドゥルエロの地に新しい修道院を作った。これが跣足カルメル会の発祥の地となる。その時、彼が新しい修道名を選んだ。それは十字架のヨハネである。ヨハネはそこで意欲的に修道会の靈的刷新に乗り出すことになったが、彼の行動はまわりの修道士たちに危険視され、理解されなかった。

ピアチェンツァで行われた修道会総会で、彼の行動が厳しく弾劾されたため、1577年には同じ修道会士の手によって修道院から拉致され、トレドで幽閉される憂き目にあった。暗い小部屋での九ヶ月の幽閉生活の中で、ヨハネは霊的なインスピレーションを受けた。そして幽閉生活から開放されると、そこで得た経験を書きとめた。これが『暗夜』である。以後、神秘家として活発な著述を行うようになり、1581年には教皇グレゴリウス 13 世の許可を得てようやく改革カルメル会(跣足カルメル会)が認められるようになったが、同会においても 1591 年のマドリッドでの会議で批判され、ペニユエラへの隠棲を余儀なくされる。まもなく病を得てウベダの修道院に送られ、1591 年 12 月 14 日に 49 歳でこの世を去った。1593 年 5 月にヨハネの遺体はウベダからセゴヴィアに移動された。

彼の著作が初めて出版されたのは死後 30 年ほどした 1618 年のことであった。1675 年 1 月 25 日に教皇クレメンス十世によって列福され、1726 年 12 月 27 日に教皇ベネディクト十三世によって列聖された。1926 年 8 月 24 日に教皇ピオ十一世によって「教会博士」という称号を公式に受けた。

集会祈願

聖なる父よ、あなたは十字架の聖ヨハネを選び、自分を全く捨て、十字架の愛に生きる者としてくださいました。わたしたちも聖人の示した道を歩み、永遠にあなたの栄光を仰ぎ見ることができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読 (エレミヤ 18・18-20)

エレミヤの預言

〔人々は言う。〕我々はエレミヤに対して計略をめぐらそう。祭司から律法が、賢者から助言が、預言者から御言葉が失われることはない。舌をもって彼を打とう。彼の告げる言葉には全く耳を傾けまい。〕

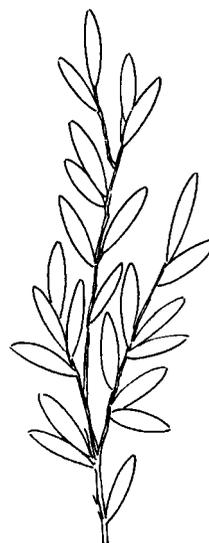
主よ、わたしに耳を傾け
わたしと争う者の声を聞いてください。
悪をもって善に報いてもよいでしょうか。
彼らはわたしの命を奪おうとして
落とし穴を掘りました。
御前にわたしが立ち、彼らをかばい
あなたの怒りをなだめようとしたことを
御心に留めてください。

答唱詩編

神はわたしを救われる。
そのいつくしみをたたえよう。

神よ、あなたはわたしの岩、わたしの砦。
あなたのいつくしみによってわたしを導き出し、
しかけられた網からわたしを助け出してください。
あなたはわたしの逃れ場。

神よ、わたしはあなたにより頼む。
「あなたこそわたしの神。」
あなたの手にわたしの生涯をゆだねる。
いつくしみによって救ってください。



詠唱

わたしは世の光。わたしに従う人はいのちの光をもっている。

福音朗読 (マタイ 20・17-28)

マタイによる福音

イエスはエルサレムへ上って行く途中、十二人の弟子だけを呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は、祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して、異邦人に引き渡す。人の子を侮辱し、鞭打ち、十字架につけるためである。そして、人の子は三日目に復活する。」

そのとき、ゼベダイの息子たちの母が、その二人の息子と一緒にイエスのところに来て、ひれ伏し、何かを願おうとした。イエスが、「何が望みか」と言われると、彼女は言った。「王座にお着きになるとき、この二人の息子が、一人はあなたの右に、もう一人は左に座れるとおっしゃってください。」

イエスはお答えになった。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっていない。このわたしが飲もうとしている杯を飲むことができるか。」二人が、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしの杯を飲むことになる。しかし、わたしの右と左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、わたしの父によって定められた人々に許されるのだ。」

ほかの十人の者はこれを聞いて、この二人の兄弟のことで腹を立てた。そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では支配者たちが民を支配し、偉大な人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になささい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」

奉納祈願

全能の神よ、聖ヨハネをたたえてささげる供えものを顧みてください。主の受難を記念するわたしたちが、その神秘を日々生きることができるよう。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

愛の源である神よ、あなたは、聖ヨハネの生涯を通して、十字架の神秘の偉大さを示してくださいました。主の奉獻にあずかったわたしたちが、いつもキリストに結ばれて、人々の救いのために力強く働くことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。



3月8日 アビラ

イエスの聖テレジア（おとめ教会博士）



イエスの聖テレジア（洗礼名 Teresa de Cepeda y Ahumada）は 1515 年 3 月 28 日にスペインのアビラで生まれた。

彼女は、若い頃から父親 (Alonso Sanchez de Cepeda) と母親 (Beatriz d'Avila y Ahumada) による教えを受けて、非常に信仰深く禁欲的な理想をしっかりと植え付けられていた。彼女の父の家系はおそらくユダヤ教からの改宗者だった。

テレジアは聖人の生き様に魅了されていた。そして、少女時代に何度か家出をし、荒野の殉教地を探した。

1535 年 11 月 2 日、父親の家をこっそり抜け出して、彼女はアビラにあるカルメル会のエンカルナシオン女子修道院に入った。

改革者としての活動

彼女が内部の原動力を、外部への実際的な表現としようと考えたきっかけは、アルカンタラの聖ペトロである。1560 年の初頭、彼は偶然創立者としての彼女と知り合った。そして、彼女の精神的な指導者・カウンセラーとなった。彼女はその時、カルメル会女子修道院を創立し、彼女が気付いたエンカルナシオン修道院のだらしなさを改革しようと決心した。

1562 年 8 月 24 日に創立され、聖ヨセフと名付けられた新しい修道院の明らかな貧しさは、最初はアビラの一般市民や教会関係者たちの中でスキャンダルを沸騰させた。1563 年 5 月、テレジアが新しい修道院へと移転した時、彼女は明らかな貧しさと豊かさの拒絶という最も重要な原則について、教皇の支持を取り付けた。その原則を彼女は「規約」という形で明確にするようにしていった。

1567年、テレジアはカルメル会の総長の特別な許しを得て、彼女の指示で複数の新しい修道院を創立した。1567年から1582年にかけて、17改革修道院が建てられた。彼女の精神を手本にして、十字架のヨハネによって男子修道士にむけた同様の運動が始められた。

1576年、テレジアの改革に対抗する旧来の保守的なカルメル会の修道士たちの側から、一連の迫害が始まった。カルメル会の「戒律決定者たち」は、新たに修道院を創立することを全面的に禁じたのである。修道会の総会長は、彼女を創立した修道院の一つで自主的に隠遁生活を送るように追いやった。彼女はそれに従い、トレドにある聖ヨセフの修道院で過ごす道を選んだ。

数年の後、ついに彼女の判決がスペイン王フィリッポ2世の書面によって通告され、彼女は安堵を得ることができた。結果として、1579年、彼女に反対して起こされた宗教裁判の前の出来事は、なかったことになった。そして、改革の伸張は少なくとも消極的な意味で順序を変えることになった。教皇グレゴリウス13世の声明文は、跣足カルメル女子修道会の新しい支局に対して、特別な管区長を置くことを許可するものだった。テレジアの人生の最後の3年間の間、彼女は、さらに、五つの修道院を創立した。

テレジアは、1582年の10月4日の夜、69歳で、アルバ・デ・トルメスの修道院でこの世を去った。その日、カトリックの世界では、ユリウス暦からグレゴリオ暦に切り替えた時に当たっていたので、10月15日がテレジアの記念日となった。

1622年に列聖された。1970年に教皇によって「教会博士」という称号を公式に受けた。

集会祈願

全能の父よ、あなたはアビラの聖テレジアを聖霊によって導き、神との一致に達する道を教会に示してくださいました。聖女の教えを心の糧とし、聖性へのあこがれに目覚めることができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読 (エレミヤ 17・5-10)

エレミヤの預言

主はこう言われる。
呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし、
その心が主を離れ去っている人は。
彼は荒れ地の裸の木。
恵みの雨を見ることなく人の住めない不毛の地
炎暑の荒れ野を住まいとする。
祝福されよ、主に信頼する人は。
主がその人のよりどころとなられる。
彼は水のほとりに植えられた木。
水路のほとりに根を張り
暑さが襲うのを見ることなく
その葉は青々としている。
干ばつの年にも憂いがなく
実を結ぶことをやめない。
人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。
誰がそれを知りえようか。
心を探り、そのはらわたを究めるのは主なるわたしである。
それぞれの道、業の結ぶ実に従って報いる。



答唱詩編

流れのほとりの木のように、神に従う人は実を結ぶ。

しあわせな人、罪びとの道を歩むことなく、
神のおきてを喜びとし、昼も夜も教えを心に留める人。

流れのほとりに植えられた木が、季節になると豊かに実り、
葉もしおれることのないように、この人の行いも実を結ぶ。

詠唱 (ルカ 8・15)

よい心で神のことばを保ち、忍耐をもって実を結ぶ人はさいわい。

福音朗読 (ルカ 16・19-31)

ルカによる福音

〔そのとき、イエスはファリサイ派の人々に言われた。〕ある金持ちがいた。
いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。この

金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによって宴席にいるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみるがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前はもだえ苦しむのだ。そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があって、ここからお前たちの方へ渡ろうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもしかない。』

金持ちは言った。『父よ、ではお願いします。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行ってやれば、悔い改めるでしょう。』アブラハムは言った。『もし、モーセと予言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』

奉納祈願

父である神よ、聖テレジアの生涯の奉獻を快く受け入れてくださったように、わたしたちがささげる供えものを受け入れ、み心にかなうものとしてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

救いの源である神よ、天からのパンで養われたあなたの家族を力づけてください。聖テレジアとともに、あなたのいつくしみを永遠に喜び歌うことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

3月9日 アルバ・デ・トルメス

聖人(せいじん)

聖人は、一般的に徳が高く、人格高潔で、生き方において他の人物の模範となるような人物のことをさす。

キリスト教において、聖人という語は、神によって聖とされた信徒を指す。その対象には歴史的に若干の変動があり、また教派によって扱いが異なる。新約聖書では、「聖なる人」という言葉が、生者と死者の両方にあてはめられている。使徒パウロの手紙の多くは「すべての聖なるものたちに」と宛てられている。

聖人崇敬

時としてキリスト教についてあまり知らない人が、「キリスト教は一神教といいながら、なぜ多神教のように聖人を崇拝するのか」という疑問を持つことがあるが、キリスト教では、崇敬・尊崇と崇拝は異なる意義付けがなされている。この観点からは、キリスト教徒は聖人を崇拝しているわけではなく、聖人をうやまうこと(崇敬)は拝むこと(崇拝)ではない。神への信仰と聖人への敬意はまったく別レベルのものである。

聖人への崇敬は伝統的にキリスト教信仰の一部をなしてきた。古来より聖人は、神のそばでとりなしを行うことで、信者の祈りを聞き入れ、神と人間の媒介としての役割を担うとみなされた。

聖人への崇敬はカトリック教会で行われる。公式に認定(列聖)されなければ聖人と認められない。一般に、聖人として認めるための調査は死後に時間をかけて行われ、厳しい審査を経てようやく認められる。

古代のキリスト教では、聖人として尊崇された者はみな殉教者だった。殉教者を尊び、その遺骸や遺物を集めて墓を立て、崇敬することがなされていた。殉教者の墓(マルティリウム)は礼拝堂と並んで、信仰生活の中心となった。



聖人の遺骸は、カトリックでは聖遺物と呼ばれる。遺体が腐敗せずに残ることを聖人である証明の一つとみなすことは伝統的な見方である。聖人の遺骸またその一部は古代から中世においては強い崇敬の対象となり、それに関連した奇跡が多く語られている。

それぞれの教会において、一年間の中で聖人の祝い日は特定の日付に固定されている。これをまとめたものを聖人暦と呼ぶ。多くはその聖人が死亡した日が記念日となるが、異なる場合もある。カトリック教会では、第2バチカン公会議以降、聖人暦の見直し、整理が行われた。史実上の存在が明らかでないと考えられた聖人などは外され、その祝いは禁止された。

聖人崇敬において重要な概念には守護聖人の考えがある。一般に、洗礼名をそれによってつけた聖人を、個人の守護聖人とする。洗礼名のほかに堅信のときには堅信名を付ける習慣があり、これは洗礼名と別の聖人を選ぶこともできる。また修道者は、ある聖人の名前にちなんで自らの修道名をつける。

集会祈願

聖なる父よ、あなたはきょう、すべての聖人のいさおしをたたえる喜びを与えてくださいます。聖人たちの取り次ぎを願うわたしたちが、あがないの恵みを豊かに受けることができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読 (創世記 37、3-4・12-13a・17b-28)

創世記

イスラエルは、ヨセフが年寄り子であったので、どの息子よりもかわいがり、彼には裾の長い晴れ着を作ってやった。兄たちは、父がどの兄弟よりもヨセフをかわいがるのを見て、ヨセフを憎み、穏やかに話すこともできなかった。

兄たちが出かけに行き、シケムで父の羊の群れを飼っていたとき、イスラエルはヨセフに言った。「兄さんたちはシケムで羊を飼っているはずだ。お前を彼らのところへやりたいのだが。」ヨセフは兄たちの後を追って行き、ドタンで一行を見つけた。

兄たちは、はるか遠くの方にヨセフの姿を認めると、まだ近づいて来ないうち

に、ヨセフを殺してしまおうとたくらみ、相談した。「おい、向こうから例の夢見るお方がやって来る。さあ、今だ。あれを殺して、穴の一つに投げ込もう。後は、野獣に食われたと言えよ。あれの夢がどうなるか、見てやろう。」

ルベンはこれを聞いて、ヨセフを彼らの手から助け出そうとして、言った。「命まで取るのはよそう。」ルベンは続けて言った。「血を流してはならない。荒野のこの穴に投げ入れよう。手を下してはならない。」

ルベンは、ヨセフを彼らの手から助け出して、父のもとへ帰したかったのである。ヨセフがやって来ると、兄たちはヨセフが着ていた着物、裾の長い晴れ着をはぎ取り、彼を捕らえて、穴に投げ込んだ。その穴は空で水はなかった。

彼らはそれから、腰を下ろして食事を始めたが、ふと目を上げると、イシュマエル人の隊商がギレアドの方からやって来るのが見えた。らくだに樹脂、乳香、没薬を積んで、エジプトに下って行こうとしているところであった。ユダは兄弟たちに言った。「弟を殺して、その血を覆っても、何の得にもならない。それより、あのイシュマエル人に売ろうではないか。弟に手をかけるのはよそう。あれだって、肉親の弟だから。」兄弟たちは、これを聞き入れた。

ところが、その間にミディアン人の商人たちが通りかかって、ヨセフを穴から引き上げ、銀二十枚でイシュマエル人に売ったので、彼らはヨセフをエジプトに連れて行ってしまった。

答唱詩編

神はわたしを救われる。
そのいつくしみをたたえよう。

神よ、あなたはわたしを救い、死の力が勝ち誇るのを許されない。
神よ、あなたは死の国からわたしを引き上げ、
危ういのちを助けてくださった。

神よ、いつくしみ深くわたしを顧み、わたしの助けとなってください。
あなたは嘆きを喜びに変え、荒ら布を晴れ着に替えてくださった。

詠唱 ヨハネ 3、16

神はひとり子をお与えになるほど、世を愛してくださった。神を信じる人は永遠のいのちに生きる。

福音朗読 マタイ 21、33-43,45-46

マタイによる福音

〔そのとき、イエスは祭司長や民の長老たちに言われた。〕「もう一つのたとえを聞きなさい。ある家の主人がぶどう園を作り、垣を巡らし、その中に搾り場を掘り、見張りのやぐらを立て、これを農夫たちに貸して旅に出た。さて、収穫の 때가近づいたとき、収穫を受け取るために、僕たちを農夫たちのところへ送った。

農夫たちはこの僕たちを捕まえ、一人を袋だたきにし、一人を殺し、一人を石で打ち殺した。また、他の僕たちを前よりも多く送ったが、農夫たちは同じ目に遭わせた。そこで最後に、『わたしの息子なら敬ってくれるだろう』と言って、主人は自分の息子を送った。農夫たちは、その息子を見て話し合った。『これは跡取りだ。さあ、殺して、彼の相続財産を我々のものにしよう。』そして、息子を捕まえ、ぶどう園の外にほうり出して殺してしまった。さて、ぶどう園の主人が帰って来たら、この農夫たちをどうするだろうか。』彼らは言った。「その悪人どもをひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は、季節ごとに収穫を納めるほかの農夫たちに貸すにちがいない。」イエスは言われた。「聖書にこう書いてあるのを、まだ読んだことがないのか。

『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。

これは、主がなさったことで、わたしたちの目には不思議に見える。』だから、言うておくが、神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる。」

祭司長たちやファリサイ派の人々はこのたとえを聞いて、イエスが自分たちのことを言うておられると気づき、イエスを捕らえようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者だと思っていたからである。

奉納祈願

父である神よ、すべての聖人をたたえて捧げる供え物を受け入れてください。あなたのもとに生きる聖人たちの祈りに支えられるわたしたちが、救いの神秘にあずかることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

聖なる父よ、すべての聖人のうちに現されたあなたの栄光をたたえて祈ります。旅路の糧を受けたわたしたちが豊かな愛に強められ、あなたの家で永遠のうたげにあずかることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

3月10日 メディナ・デル・カンポ

カルメル会

(ラテン語: Ordo fratrum Beatae Virginis Mariae de monte Carmelo、略称 O.C.)
男子カルメル会と女子カルメル会、および第三会と呼ばれる在俗者会がある。

カルメル会は、12世紀にベルトルドという修道者がパレスティナ(現在イスラエル)のカルメル山の”Wadi-es-Siah”谷に修道院を築いて暮らしたことが起源とされる。会の名称はその地名からとられている。ベルトルドはもともとカラブリア(イタリア)の出身であったが、巡礼者あるいは十字軍戦士としてパレスティナに赴き、発願して修道者となったといわれている。カルメル山は旧約聖書の『列王記上』で預言者エリヤがバアルの預言者たちと対決し、勝利したことで知られる山である。



ベルトルドの修道院に修道士が集まって生活を始めると、会則が出来、1226年に教皇ホノリウス3世に認可されたことで正式な修道会として成立した。13世紀に東方と西方の乖離が進んだため、カルメル会士たちは発祥地のカルメル山を離れてシチリアとキプロスに修道院をつくった。やが

て会員の増加と共に、イギリスなどヨーロッパ中にカルメル会の修道院を立てていった。1259年にはルイ12世の援助によってパリにカルメル会修道院が設置されている。

13-14世紀の間、女子カルメル会も創立されました。しかし、修道院生活として1450年ごろからです。

15世紀、1434年ごろ、カルメル会の新会則が出来ました。それが教皇エウジェニウス4世に認可されましたが、多くの修道士が反対だった。数年後、刷新運動が勃興し、原点回帰が叫ばれるようになった。その動きの中で特に大きな役

割を果たしたのは 16 世紀の女子修道会におけるアビラのテレジアであり、男子修道会における十字架のヨハネである。彼らの思想に共鳴し、後に続いたカルメル会士たちは跣足カルメル会と呼ばれるようになる。

その後、フランス革命と近代啓蒙思想の発達によって反カトリック教会・反修道会的風潮がヨーロッパに強まったことで、カルメル会も大きな打撃を受けたが、この危機を乗り越え、現代でも世界中に多くの修道院が存続している。日本にも東京(1933年)を初めとして、現在までに 9 つの跣足女子カルメル会修道院(東京、西宮、福岡、京都、伊達、山口、大分、十勝、泰阜)が創立されています。

集会祈願

いのちの源である神よ、あなたは、この世に生きるわたしたちを、秘跡の恵みによって朽ちることのないいのちにあずからせてくださいます。わたしたちの日々の歩みを照らし、永遠の国へ導いてください。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読 (ミカ 7、14-15,18-20)

ミカの頭言

[主よ]あなたの杖をもって
御自分の民を牧してください、
あなたの嗣業である羊の群れを。
彼らが豊かな牧場の森に
ただひとり守られて住み
遠い昔のように、バシャンとギレアドで
草をはむことができるように。
お前がエジプトの地を出たときのように
彼らに驚くべき業をわたしは示す。
あなたのような神がほかにあろうか
答を除き、罪を赦される神が。
神は御自分の嗣業の民の残りの者に
いつまでも怒りを保たれることはない
神は慈しみを喜ばれるゆえに。
主は再び我らを憐れみ



我らの答を抑え
すべての罪を海の深みに投げ込まれる。
どうか、ヤコブにまことを
アブラハムに慈しみを示してください
その昔、我らの父祖にお誓いになったように。

答唱詩編

心を尽くして神をたたえ、すべての恵みを心に留めよう。

神はわたしの罪をゆるし、痛みをいやされる。
わたしのいのちを危機から救い、いつくしみ深く祝福される。

天が地より高いように、いつくしみは神をおそれる人の上にある。
東と西が果てしなく遠いように、神はわたしたちを罪から引き離される。

詠唱（ルカ、15、18）

父のもとに帰って言おう。「わたしは神にもあなたにも罪を犯しました。」

福音朗読（ルカ、15、1-3,11-32）

ルカによる福音

〔そのとき、〕徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。

「ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をくださいと言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄使いしてしまった。

何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物を与える人はだれもいなかった。そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。』お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対し

ても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください」と。』そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。

ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。

ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。

しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。ところが、あなたの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』

奉納祈願

聖なる父よ、この秘跡にあずかるわたしたちに、キリストのあがないの力を現してください。いつも罪を遠ざけ、救いの喜びを受けることができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

神よ、今拝領した秘跡の恵みを深く味わい、キリストのうちに力強く生きることができるよう。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

グレゴリオ聖歌

グレゴリオ聖歌は古代以来、ローマ・カトリック教会において典礼に用いられていた聖歌。歌詞はラテン語で単旋律、無伴奏で歌われるのが特徴。教皇グレゴリウス 1 世が東方典礼聖歌に基づいて編纂したと信じられており、その名が冠される。



写真: "Puer natus est nobis et filius natus est nobis, cuius imperium...." (=私たちのために子供が生まれた、私たちのために(神の)御子が生まれた、...)

もともとキリスト教の典礼と音楽は、ユダヤ教の伝統を受け継ぎながら、キリスト教独自の要素を加えて、3 世紀から 4 世紀にかけて整えられた。4 世紀末にミラノの司教アンブロジウスが、東方の聖歌を移入して成立したアンブロジウス聖歌など、キリスト教の典礼音楽はヨーロッパ各地でそれぞれ固有の様相を示していた。それを統一しようと試みたのが、教皇グレゴリウス 1 世である。

今日、グレゴリオ聖歌として知られる膨大な旋律群は、おもに 8

世紀から 9 世紀にかけて、カロリング朝フランク王国の文化的興隆を背景に発展し、記譜されるようになったものに由来している。そのため、それ以前のヨーロッパ各地の地方典礼の中では、ガリア聖歌の影響をもっとも色濃く残している。

なお教皇グレゴリウスの名を冠した理由としては、当時フランク王国に多く招聘されていたイングランドの聖職者がアングロ = サクソン教会の創立者であるグレゴリウス 1 世をたたえたものであるという説や、当時のグレゴリウス 2 世 (715-731 在位) を指していたものだとする説がある。

旋律は教会旋法と呼ばれる 8 種類の音域 (音階) に基づき、それぞれ主音 (終止音、フィナリス) と属音 (支配音、ドミナント) を軸に、論理的に構成される。この特徴は、バロック音楽から古典派、近代に至るヨーロッパ音楽に共通の特徴的な枠組みをなすものである。

聖歌旋律は、ごく短いメリスマ (ネウマ的) 様式含むをシラビック (音節的) な様式が中心である。特に詩篇唱の際には構造的な旋律定型が用いられ、発唱句 - 保持句 - 中間句 - 保持句 - 終止句の 5 つの部分からなる聖歌旋律を詩篇の 1 行 1 行にあてはめて歌っていく。原則的には、単旋律で無伴奏、男声によるものであるが、実際にはオルガンの伴奏を伴ったり、またその後の音楽史上、多声化されていくことになる。

第二ヴァチカン公会議まではミサや典礼はラテン語で行われ、グレゴリオ聖歌が公式の典礼音楽として用いられていたが、公会議以降はラテン語のみならず、地域に固有の言語による典礼が奨められるようになったことを受けて、典礼音楽としてのグレゴリオ聖歌は次第に各国語の聖歌にとってかわっていった。

現在ではローマなど一部の教会を除いて通常の典礼ではあまり用いられなくなったが、宗教音楽という枠を超えていまだに根強い人気を誇っている。



(サント・ドミンゴ・デ・シロス)

3月11日 カレルエガ

聖ドミニコ・デ・グズマン

聖ドミニコは、スペインのブルゴス県のカレルエガにフェリックス・デ・グズマンを父に福者ホアナ・デ・アサを母として 1171 年頃に誕生した。

ドミニコが 6 歳になるとグミエル・デ・イサンの首席司祭であった叔父のもとに送られ教育を受け（一般学業の初歩をおさめる）幼少の時から聖なる芳香で満たされていたという。勉学の初歩と共に、教会の人としての道を学んでいくことになる。

14 歳になると、ドミニコは叔父の教会を離れてさらに上の学校に通うためパレンシアに行く。そこでは、伝統的自由七学科を 6 年間くらい学び、後には神学と聖書の養成を 4 年間受けた。

ドミニコは、他者に対して自分を閉じていたのではない。一人で祈るとき、彼は祈りの中で他者と共にあった。このことがはっきりと示されるのは、パレンシアに滞在中、厳しい飢饉でスペイン全土が荒廃した時のことである。彼は「人が飢えて死んでいくとき死んだ皮の上で勉強していることはできない」と言って非常に高価だった本を売り、代金を貧しいひとたちのために使った。

ドミニコは自分の計画を長い時間をかけて熟させ、着実に実現させていくというタイプだった。

ドミニコは、1203年、アルフォンソ8世というカスティリアの王様から自分の息子とデンマークの王女との婚約を取り決めるための使者として、オスマの司教ディエゴとデンマークまで旅をした。



旅の途中で、ドミニコは南フランスを中心に広がっていたカタル派と呼ばれる異端と出会った。罪なき善良な人々を偽りの教えによって窮地に追い込み、脅かされていた人々は教会に対する敵対心から分裂し、悲しい思いをしていた。

このような人々に兄弟的憐れみを感じたドミニコは、教会の信仰の真理を正しく伝えることによってカタル派をなくそうと宣教活動に力を注ぐことになった。

ドミニコは、いつも、力によるのではなく、真理に基づいた説教、喜びにあふれた福音的な貧しい生き方によって、苦しむ人々の救済に貢献しました。ドミニコは南フランス、イタリア、スペインで説教してまわったが、ドミニコの説教を聞いた多くの若者たちが感動し、ドミニコの魅力にひかれて彼のもとに集まってきた。

1215年 ツールーズに会の修道院を設立し、当地のフルク司教によりドミニコ会（説教者兄弟会）は、公式に位置づけられる。その時点でドミニコ会共同体に永続的に説教の権利が与えられた。これによって、彼の説教活動はかつては南フランスの異端者を根絶することを目的としていたが、この時からカトリックである人たちも対象に、教会の教えを説いていくことになる。これは、いわば教会のシステムを変えることであった。1216年12月22日、教皇ホノリウス3世はこの修道会を認可した。

1221年8月6日に死去。死後の1234年8月5日に聖人に選ばれた。



集会祈願

すべての人の救いを望まれる神よ、聖ドミニコの教えと模範によって、あなたの民を照らしてください。すぐれた説教によって人々を導いた聖人の取り次ぎに支えられ、真理の光に近づくことができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読（出エジプト 3・1-8a,13-15）

出エジプト記

〔そのころ、〕モーセは、しゅうとでありミディアンの祭司であるエト口の羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒れ野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来た。そのとき、柴の間に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は燃え尽きない。モーセは言った。「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え尽きないのだろう。」

主は、モーセが道をそれて見に来るのを御覧になった。神は柴の間から声をかけられ、「モーセよ、モーセよ」と言われた。彼が、「はい」と答えると、神が言われた。「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから。」神は続けて言われた。「わたしはあなたの父の神である。アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは、神を見ることを恐れて顔を覆った。

主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地へ彼らを導き上る。」

モーセは神に尋ねた。

「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」

神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」神は、更に続けてモーセに命じられた。「イスラエルの人々にこう言うがよい。あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主がわたしをあなたたちのもとに遣わされた。

これこそ、とこしえにわたしの名
これこそ、世々にわたしの呼び名。」

答唱詩編

心を尽くして神をたたえ、すべての恵みを心に留めよう。

神はわたしの罪をゆるし、痛みをいやされる。
わたしのいのちを危機から救い、いつくしみ深く祝福される。

神は正義のわざを行い、しいたげられている人を守られる。
神はその道をモーセに示し、そのわざをイスラエルの子らに告げられた。

神は恵み豊かに、あわれみ深く、怒るに遅く、いつくしみ深い。
父が子どもをいつくしむように、神の愛は、神をおそれる人の上にある。

第二朗読 (一コリント 10・1-6,10-12) 使徒パウロのコリントの教会への手紙

兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、皆、同じ霊的な食物を食べ、皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったのです。しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒野で滅ぼされてしまいました。これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言うてはいけません。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけ〔なさい〕。



詠唱 (マタイ 4・17)

「神に立ち戻りなさい。神の国は来ている」と主は仰せになる。

福音朗読 (ルカ 13・1-9)

ルカによる福音

ちょうどそのとき、何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』」

奉納祈願

全能の神よ、聖ドミニコの祝日にささげるわたしたちの祈りを顧み、信仰のために戦う人々を、この秘跡の力によって守り、強めてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

拝領祈願

いつくしみ深い神よ、とうとい秘跡に養われたわたしたちに、信仰の恵みを豊かにお与えください。聖人の説教によって力づけられた教会が、今もその祈りによって支えられますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

ロザリオの祈り

ロザリオの祈りは伝統的な祈りの中でも最もポピュラーなものです。今では若者が一種のファッションとしてロザリオを首にかけているのを目にするくらいです。

さて、ロザリオ、その名前は「バラの花園」「バラの冠」を意味するラテン語の“Rosarium”から来ています。このロザリオを使った祈りは13世紀ころ始まったとされますが、15世紀に主にドミニコ会員の働きによって広範に広まりました。その時、聖母が聖ドミニコに現れてロザリオの祈りを教えたとする由来話が加わりますが、本当ははっきりしません。実際のところは、当時盛んになっていたキリストと聖母への信心業が組み合わさって出来上がっていったようです。



ロザリオは「信者の聖務日課」とも呼ばれています。これは当時、修道者が旧約聖書の150の詩編を基に行っていた聖務日課にちなみ、文字の読めない民衆が自分たちも祈りにあずかりたいと、詩編の代わりに「主の祈り」を150回唱えたり、聖母への信心から「聖母マリアへの祈り（天使祝詞）」を同じように唱え始めたことに由来するようです。また聖書の読めない信者たちに、主にルカの福音

書に基づく聖書の場面からイエスと聖母マリアの生涯を黙想することも盛んになり、これらが組み合わさっていったようです。

珠を使って祈る祈りも修道士の間でずいぶん昔からあったようで、仏教の数珠（じゅず＝百八珠）やヒンズー教でもジャパマラと呼ばれる数珠が使われており、短い聖句を数えながら繰り返し祈るスタイルは祈りを求める人々の心に響いていたということです。

ロザリオは5連が一環となっていて、それに合わせて黙想をするために3つの神秘が用意されてきました。「喜びの神秘」、「悲しみの神秘」、「栄光の神

秘」です。これらはイエスとマリア様の生涯をテーマに分けて救いの歴史を祈っていくものです。けれども2002年に故教皇ヨハネ・パウロ二世は使徒的書簡『おとめマリアのロザリオ』の中で新たに「光の神秘」を加えられました。それぞれ、1連のはじめに、具体的な聖書の場面を思い起こし、それから祈っていくのですが、最もやりやすい黙想方法と言ってもよいでしょう。

今の私たちは、忙しさの中で心が落ち着かず、毎日過ごしているということが多いのではないのでしょうか。そのため静かに祈る時間を持つというのは大切です。けれどもそんな時間も取れないという人たちに、このロザリオの祈りは助けとなります。

ロザリオの珠を指で繰りながら天使祝詞を繰り返して祈っていると、不思議と心が落ち着いてきます。テーマとなっている神秘を意識しなくても、誰かのため、困難を抱えている人のために唱えるというのもとても素晴らしいことです。

意味を考えながら祈れなくてもロザリオの場合、大丈夫です。無心になれます。ロザリオの祈りは、私が祈りつつ、祈りそのものが私を導いてくれるという、祈りの深みを体験させてくれます。





私たちが幸せとを感じる時、
それも主から頂く恵みです。
この時、主のみ心を信じることは簡単です。
主のみ心はすでに明らかにされているからです。
しかし、私たちが苦しむ時、私たちには主のみ心が
分かりませんし、検討もつきません。
しかし、主はその苦しみを通して私たちの
救いの道を用意して下さるのです。
主のみ旨が分からないからこそ、
私たちが主のみ心（愛）を
無条件に信じるのが求められるのです。

12日 リジュール (フランス)

幼きイエスの聖テレジア

リジュールのテレジア「本名はマリー・フランソワーズ・テレーズ・マルタン (Marie-Francoise-Therese Martin)」は、1873年1月2日、フランスのアランソンに生まれた。父ルイは時計屋を営み、母ゼリーは腕のいいレース職人だった。夫婦は信仰あつく、仲が良かった。夫婦の間には9人の子供が生まれたが、結核などのために4人が夭逝し、5人の娘たち(マリー、ポーヌ、レオニー、セリーヌ、テレジア)だけが成長することができた。テレジアは末っ子で、感受性が強く、誰からも愛される子供だった。



テレジアが4歳のときに、もともと体が弱かった母が病死(1877年)精神的に耐え切れなくなった父は店をたたみ、娘たちをつれて妻の実家グラン家があるノルマンディーのリジュールへと移った。1882年、テレジアが9歳のとき、それまで母親がわりをつとめていた長姉のポーヌがリジュールのカルメル会修道院に入った。母親について、第二の母であった姉を失うという体験は幼いテレジアの心に大きな影響を与えた。このころからテレジアは修道女になりたいという希望を繰り返し訴えるようになる。1886年に二人の姉マリーとレオニーも修道院に入ったことでその望みがいっそう強くなった。

1887年、14歳になったテレジアはカルメル会入会を願う。父は許してくれたが、修道院の院長や指導司祭に年齢の低さを理由に断られる。ついでバイウの司教に許可を得ようとしたが、やはり年齢の低さを理由に許可されなかった。同年10月、テレジアが15歳の時、父や姉たちと共にローマへの巡礼団に加わった。そこでローマ教皇レオ13世に謁見して直接カルメル会入会の特別許可を願ったが、教皇はやはり司教と指導司祭のすすめに従うようにと穏やかにテレジアを諭した。

テレジアが16歳になり、司教がようやく修道院入りを許可したため、テレジアは1889年4月9日にカルメル会に入会、「幼きイエスのテレジア」という修道

名を受ける。このとき、すでに二人の姉（マリー、ポーリーヌ）がカルメル会に入会していた。同じ年、かねてから体調がすぐれず、精神を病む兆候を見せていた父が心臓発作に見舞われ、療養所に入った。父はここで最期の三年を過ごすことになる。1890年9月8日、最初の修道誓願をたてたテレジアは修道名に「尊い面影」という言葉を付け加えた。

1894年7月29日、父ルイが死去。父の死後、最後まで父につきそった姉のセリーヌもカルメル会に入会。もともと体が弱く、家族から結核菌を受け継いでいたと思われるテレジアは1896年4月に咯血。そのまま病勢が進み、1897年9月30日に24歳の若さで亡くなった。彼女は海外宣教に強い関心があり、インドシナ宣教の望みがあったが、それは果たされなかった。

1914年6月10日、教皇ピウス10世はテレジアを列福。ベネディクトゥス15世は、通常死後50年たたないと列聖はできないという条件をテレジアに限り特別に緩和することを決定、これは異例のことであった。1925年5月17日、テレジアは死後わずか28年にして教皇ピウス11世の手で列聖された。

1927年12月14日には海外宣教者の守護聖人となった。1997年10月19日には教皇ヨハネ・パウロ2世によって深い霊性と思想がたたえられて「教会博士」に加えられた。教会博士の称号を与えられている聖人は現在では33人おり、女性としてはアヴィラのテレジア、シエナのカタリナに続いて3人目である。

記念日は10月1日。リジューのテレジア、幼きイエスのテレジア、小さき花のテレジアなどとも呼ばれる。



集会祈願

父である神よ、あなたは、小さい者、自分を低くする者に天の国を備えてください。聖テレジアが示した信頼の道をわたしたちも歩み、聖女の取り次ぎに支えられて、栄光のいのちにあずかることができますように。聖霊の交わりの中で、あなたとともに世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

第一朗読（列王記下 5・1-15a）

列王記

〔そのころ、〕アラムの王の軍司令官ナアマンは、主君に重んじられ、気に入られていた。王がかつて彼を用いてアラムに勝利を与えられたからである。この人は勇士であったが、重い皮膚病を患っていた。アラム人がかつて部隊を編成して出動したとき、彼らはイスラエルの地から一人の少女を捕虜として連れて来て、ナアマンの妻の召し使いにしていた。少女は女主人に言った。「御主人様がサマリアの預言者のところにおいでになれば、その重い皮膚病をいやしてもらえるでしょうに。」ナアマンが主君のもとに行き、「イスラエルの地から来た娘がこのようなことを言っています」と伝えると、アラムの王は言った。「行くがよい。わたしもイスラエルの王に手紙を送ろう。」こうしてナアマンは銀十キカル、金六千シェケル、着替えの服十着を携えて出かけた。彼はイスラエルの王に手紙を持って行った。そこには、こうしたためられていた。

「今、この手紙をお届けするとともに、家臣ナアマンを送り、あなたに託します。彼の重い皮膚病をいやしてくださいますように。」イスラエルの王はこの手紙を読むと、衣を裂いて言った。「わたしが人を殺したり生かしたりする神だとも言うのか。この人は皮膚病の男を送りつけていやせと言う。よく考えてみよ。彼はわたしに言いがかりをつけようとしているのだ。」

神の人エリシャはイスラエルの王が衣を裂いたことを聞き、王のもとに人を遣わして言った。「なぜあなたは衣を裂いたりしたのですか。その男をわたしのところによこしてください。彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」

ナアマンは数頭の馬と共に戦車に乗ってエリシャの家に来て、その入り口に立った。エリシャは使いの者をやってこう言わせた。「ヨルダン川に行って七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」

ナアマンは怒ってそこを去り、こう言った。「彼が自ら出て来て、わたしの前に立ち、彼の神、主の名を呼び、患部の上で手を動かし、皮膚病をいやしてくれるものと思っていた。イスラエルのどの流れの水よりもダマスコの川アバナやパルパルの方が良いではないか。これらの川で洗って清くなれないというのか。」彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。

しかし、彼の家来たちが近づいて来ていさめた。「わが父よ、あの預言者が大変なことをあなたに命じたとしても、あなたはそのとおりなされたにちがいありません。あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか。」ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行って、ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、小さい子供の体のようになり、清くなった。

彼は随員全員を連れて神の人のところに引き返し、その前に来て立った。「イスラエルのほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりました。」

答唱詩編

谷川の水を求めて、あえぎさまよう鹿のように、神よ、わたしはあなたを慕う。

わたしの心はあなたを求め、神のいのちをあこがれる。
わたしが行ってみ前にいたり、み顔を仰げる日はいつか。
わたしは日夜神を問われて、明け暮れ涙を食物とする。

思い起こせば心は高鳴る。喜び祝う人々の群れ、
感謝と賛美の歌声の中をわたしはみ前に進み出た。

詠唱 (詩編 130)

わたしは神を待ち望み、そのことばに希望をおく。
神はいつくしみと救いの恵みに満ちておられる。



福音朗読 (ルカ 4・24-30)

ルカによる福音

〔そのとき、イエスは、ナザレの会堂で人々に言われた。〕「はっきりしておく。預言者は、自分の故郷では歓迎されないものだ。確かにしておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、エリヤはその中のだれのもとにも遣わされないで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

奉納祈願

父である神よ、聖テレジアのうちに注がれたあなたの恵みをたたえて祈ります。聖女の生涯を受け入れてくださったように、わたしたちの奉献をみ心にかなうものとして受け入れてください。わたしたちの主イエス・キリストよって。アーメン。

拝領祈願

いつくしみ深い父よ、秘跡の恵みによってわたしたちの愛と信頼を強めてください。聖テレジアにならい、わたしたちもすべてをあなたにゆだね、人々の救いを心から祈るものとなりますように。わたしたちの主イエス・キリストよって。アーメン。



ミサ式次第

入祭のあいさつと回心

司祭 父と子と聖霊のみ名によって。

会衆 アーメン。

司祭 主イエス・キリストの恵み、神の愛、
聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 皆さん、わたしたちの罪を思い、
感謝の祭儀を祝う前に、心を改めましょう。

司祭 全能の神と、

会衆 兄弟の皆さんに告白します。わたしは、思い、ことば、行い、怠りによ
ってたびたび罪を犯しました。聖母マリア、すべての天使と聖人、そし
て兄弟の皆さん、罪深いわたしのために神に祈ってください。

司祭 全能の神がわたしたちをあわれみ、
罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように

会衆 アーメン。

先唱 主よ、あわれみたまえ。

会衆 主よ、あわれみたまえ。

先唱 キリスト、あわれみたまえ。

会衆 キリスト、あわれみたまえ。

先唱 主よ、あわれみたまえ。

会衆 主よ、あわれみたまえ

ことばの典礼

第一朗読 ・ ・ 答唱詩編 ・ ・ 第二朗読

福音朗読

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 ・ ・ による福音。

会衆 主に栄光。

(福音朗読が終わると司祭は唱える)

司祭 キリストに賛美。

会衆 キリストに賛美。

信仰宣言

天地の創造主、全能の神である父を信じます。
父のひとり子、おとめマリアから生まれ、苦しみを受けて葬られ、
死者のうちから復活して、父の右におられる主イエス・キリストを信じます。
聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、
罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます。

パンを供える祈り

司祭 神よ、あなたは万物の造り主、ここに供えるパンとぶどう酒はあなたから
いただいたもの、大地の恵み、労働の実り、わたしたちのいのちの糧
となるものです。

会衆 神よ、あなたは万物の造り主。

奉献文

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 心をこめて神を仰ぎ、

会衆 賛美と感謝をささげまじょう。

感謝の賛歌

先唱 聖なるかな、

会衆 聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。

主の栄光は天地に満つ。天のいと高きところにホザンナ。

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

天のいと高きところにホザンナ。

.....

司祭 信仰の神秘。

会衆 主の死を思い、復活をたたえよう、主が来られるまで。

.....

司祭 キリストによって、キリストとともに、キリストのうちに、

聖霊の交わりの中で、全能の神、父であるあなたに、

すべての誉れと栄光は、世々に至るまで。

会衆 アーメン。

交わりの儀

司祭 主の教えを守り、みことばに従い、つつしんで主の祈りを唱えましょう。

会衆 天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしくください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

司祭 いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、現代に平和をお与えください。あなたのあわれみに支えられ、罪から解放されて、すべての困難に打ち勝つことができますように。わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが来られるのを待ち望んでいます。

会衆 国と力と栄光は、限りなくあなたのもの。

司祭 主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました。

「わたしは平和をあなたがたに残し、
わたしの平和をあなたがたに与える。」
わたしたちの罪ではなく教会の信仰を顧み、
おことばの通り教会に平和と一致をお与えください。

会衆 アーメン。

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに。

会衆 また司祭とともに。

司祭 互いに平和のあいさつをかわしましょう。

平和の賛歌

先唱 神の小羊、

会衆 世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

先唱 神の小羊、

会衆 世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。

先唱 神の小羊、

会衆 世の罪を除きたもう主よ、われらに平安を与えたまえ。

司祭 神の小羊の食卓に招かれたものは幸い
会衆 主よ、あなたは神の子キリスト、永遠のいのちの糧、
あなたをおいてだれのところに行きましょう。

閉祭

司祭 主は皆さんとともに。
会衆 また司祭とともに。

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように、
会衆 アーメン。

司祭 感謝の祭儀を終わります。行きましょう、主の平和のうちに。
会衆 神に感謝。



聖母マリアへの祈り

恵みあふれる聖マリア、
主はあなたとともにおられます。
主はあなたを選び、祝福し、
あなたの子イエスも祝福されました。
神の母聖マリア、
罪深いわたしたちのために、
今も、死を迎える時も祈ってください。
アーメン。